

2007年10月号

シビル メール ニュース

これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方または購読を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレスを明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jpで購読申し込みをしてください。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 岸井隆幸

新潟県中越沖地震被災地の志願者及び在学者に対する特別措置

大学、大学院、短期大学部、学部付属専門学校の平成20年度入試の志願者及び在学者のうち、新潟県中越沖地震に係る災害救助法適用地域に居住する者又は学費支弁者が災害救助法適用地域に居住している者についての特別措置が決定いたしました。希望する方には、「入学検定料等特別措置申請書」（下記HPより入手可）及び罹災証明書（写し可。相当する書類でも可）の提出のもとに下記の措置を適用することとなりました。詳細は日本大学HPをご覧ください。

日本大学HP (<http://www.nihon-u.ac.jp/news/2007/2007000040.html>)

被害状況と特別措置内容

区分	被害状況
A	学費支弁者の死亡又は学費支弁者が居住する家屋の全壊もしくは全焼
B	学費支弁者が居住する家屋の半壊もしくは半焼
区分	志願者に対する特別措置
A	・入学金免除 ・入学初年度1年分の授業料を全額免除
B	・入学金免除 ・入学初年度1年分の授業料を半額免除
区分	在学者に対する特別措置
A	・平成19年度後期納入分及び平成20年度前期納入分の授業料を全額免除
B	・平成19年度後期納入分及び平成20年度前期納入分の授業料を半額免除

平成19年度理工学部後援会地方父母懇談会

平成19年度理工学部後援会地方父母懇談会が8月25日（土）午後1時より、宮城・石川・愛知・大阪・広島・福岡の全国6会場にて開催され、土木工学科としては、岸井隆幸教授・徳江俊秀教授・梅津喜美夫専任講師・羽柴秀樹専任講師・小林義和専任講師・金子雄一郎専任講師が出席され、各地の父母と懇談いたしました。

大学1年生に向けた特別講演を開催

元東京都技監 村田恒雄氏の特別講演が理工学部主催で9月26日（水）11時より理工学部船橋校舎スポーツホールにて、1年生など約1000人を対象に「技術者人生・技術者魂」と題して開催され、好評を得ました。



船橋校舎スポーツホール

ドイツ国ダルムシュタット工科大学とのディアル・ディグリー・プログラム

日本大学理工学部（CST）とダルムシュタット工科大学（TUD）はディアル・ディグリー・プログラム（Dual Degree Program：以下、DD プログラム）の実施に合意しました。これによって、土木工学専攻の大学院生がこの DD プログラムへの参加を希望することができます。DD プログラムにより TUD において修得した単位を CST 修了に必要な単位として認定することができ、両大学で修了条件を満たした段階で、両大学の学位を授与されます。応募資格は以下の通りです。

- (1) 留学期間開始時に、大学院理工学研究科博士前期課程土木工学専攻（社交・建築・海建でも可能）に在学することが決定している者
- (2) TUD 土木工学専攻における、2 年間の英語・ドイツ語による授業および論文指導を含む留学生活に適応できると思われる者
- (3) 所属する専攻主任および指導教員の推薦を受けられる者

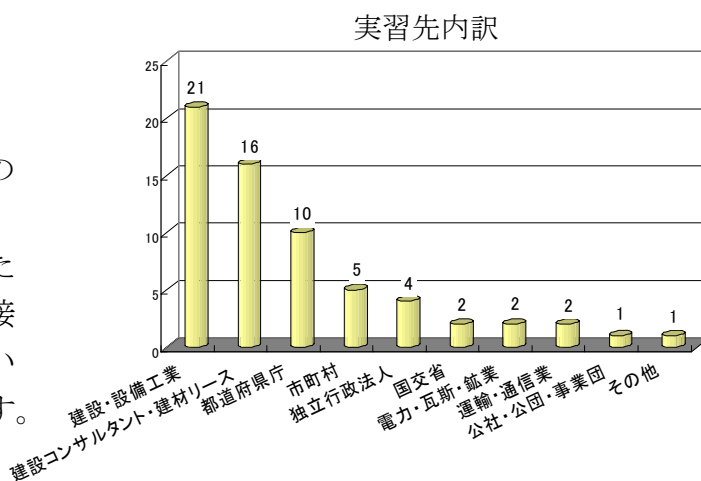
応募や選考に関する日程詳細は研究事務課から別途公表されます。願書は研究事務課ホームページよりダウンロードすることができます。

研究事務課ホームページ (<http://www.kenjm.cst.nihon-u.ac.jp/>)

平成 19 年度の夏期実習について

平成 19 年度の夏期実習（インターンシップ）が無事終了いたしました。実習先の内訳は右の通りです。

また、インターンシップにご協力いただいた企業には、アンケートを依頼し、実習態度や接し方・コミュニケーションについての回答をいただき、次年度に向けての対策としております。



平成 20 年度民間・公務員最終合格者が次々に内定

平成 20 年度民間・公務員最終合格者が次々に決定しております。主な進路先は下表の通りです。（9月19日 現在）

民間会社合格内定先

公務員合格内定格先

国家Ⅰ種（国土交通省）	1名	川崎市	5名
国家Ⅱ種	9名	さいたま市	2名
東京都	4名	仙台市	1名
東京都特別区	17名	武蔵野市	3名
神奈川県	2名	昭島市	1名
横浜市	1名	平塚市	1名
千葉県	2名	海老名市	1名
埼玉県	3名	新潟市	1名
茨城県	2名	防衛省・航空自衛隊	1名
富山県	1名	静岡県警・鳥取県警	2名
長野県	1名	合計	65名
長崎県	1名		
山形県	1名		
高知県	1名		
鳥取県	1名		

※卒業生2名含
※重複含む延べ人数

青木あすなろ建設株式会社	東亜建設工業株式会社
伊藤忠人事サービス株式会社	東鉄工業株式会社
イトヨーカ堂株式会社	飛鳥建設株式会社
株式会社一条工務店	戸田建設株式会社
大林道路株式会社	東海旅客鉄道株式会社
オルガノ株式会社	博報堂
鹿島建設株式会社	株式会社間組
京葉ガス	東日本旅客鉄道株式会社
五洋建設株式会社	ヒロセ株式会社
佐藤工業株式会社	株式会社福田組
JFE建株式会社	株式会社復建エンジニアリング
清水建設株式会社	株式会社不動産トラ
昭和株式会社	富士ソフト株式会社
スターツコーポレーション株式会社	北陸ガス株式会社
世紀東急工業株式会社	前田道路株式会社
大豊建設株式会社	前田建設工業株式会社
大和ハウス工業株式会社	ミサワホーム株式会社
高砂熱学工業株式会社	三井住建道路株式会社
大成ロテック株式会社	三井住友建設株式会社
鉄建建設株式会社	名工建設株式会社

日大土木 Who's who

日大土木とともに歩んだ偉人を紹介するコーナーです。5 回目の今回は、舗装工学の分野で多くの技術者を指導し、学生を愛してこられた藤井真透先生です。



No. 5

氏名：藤井 真透（ふじい ますき）

専門分野：舗装工学

略歴：

1889年（明治22年） 宮崎県都城市で生まれる
1914年（大正3年） 東京帝国大学工科大学土木工学科卒業
1915年（大正4年） 大阪府庁入庁
1917年（大正6年） 明治神宮造営局技師
1922年（大正11年） 東大講師兼任
1924年（大正13年） 土木試験所勤務
1931年（昭和6年） 日大講師兼任
1952年（昭和27年） 日大理工学部教授就任

藤井先生は、明治神宮造営局時代に現場技術者としての名声を不朽のものにしました。先生が工事責任者であった神宮外苑道路は、絵画館や野球グラウンドを中心とする周回道路とこれに接する多くの放射道路で構成されています。当時としては極めて大規模かつ先進的な街路計画であり、建設中に関東大震災を経験しましたが、1925年に完成しました。青山通りに向かう幅員 32.4m (18間)、両側歩道に銀杏並木を配した正面街路は、現代でも市民の憩いの場として親しまれています。また明治神宮の表参道の側溝と排水孔が1世紀近くを経て損傷もなく機能していることにも、先生の細部に至るまでのご配慮がよく残されています。その後、神宮橋は拡幅のために架け替えられましたが、その袖に先生の設計になる高欄が残されています。1924年から、先生は内務技師として土木試験所に配属されました。試験所勤務は長く、1936年には試験所長に就任され、6年後の1942年まで土木試験所には通算17年間を過ごされました。その間、1932年に舗装の研究によって工学博士の学位を取得されています。先生のご業績として一番大きなものは、次代を担った多数の若い技術者を愛しそして指導したことでありましょう。土木試験所時代には、多くの部下や後輩が先生の厳しい指導に接しました。横田周平氏、谷藤正三氏、斎藤義治氏、村上永一氏たちは、たえず所長室に呼びつけられ「もっと勉強しろ、そうしてよく考えろ」と激励され、「忙しいというのは心の持ち方だ」と諭されたそうです。議論よりは実証を重視し、実験に惜しみなく援助したと伝えられています。明治神宮造営局時代の1922年から1942年まで20年間にわたり東大講師を兼務して道路工学を主として教えられ、さらに1931年から10年間、日大講師としても街路工学の教鞭をとられました。1952年からは日大理工学部において、教授として道路工学を教えられ、多くの教え子から慈父のように慕われています。

藤井先生は、昭和初頭に「道路工学」を著し、また教壇に立ってはわが国の道路整備が政策的にも下積みにされていることに烈しい不満を漏らされていましたが、今日わが国の道路技術は先生のご貢献を基礎に世界的に引けをとらない水準に達しています。

参考文献：土木と200人、土木学会

国土を創った土木技術者たち 国土政策機構編、鹿島出版会
土木人物事典、藤井肇男、アテネ書房



青山通りから聖徳記念絵画館への
銀杏並木

最近の教員活動状況



齋藤利晃准教授が平成 19 年度理工学部学術賞を受賞されることが決定いたしました。表彰対象となった研究課題は、「脱窒能力を有するリン蓄積細菌の探索と低環境負荷型新規栄養塩除去プロセスの開発」で、11 月 9 日に表彰される予定です。また、12 月 1 日（土）の第 51 回日本大学理工学部学術講演会において、この論文が発表されます。



田中和博教授は株式会社日立プラントテクノロジーより研究奨励寄付金を受領されました。研究題目は、「膜分離活性汚泥法を利用した排水処理」であります。



竹澤三雄教授は平成 19 年度理工学部覚書校への派遣教員として、10 月 27 日から 11 月 11 日まで中国・西安理工大学に出張される予定です。



山崎淳教授が 9 月 27 日から 10 月 2 日まで、ベルギー国(ゲント市)に FIB(国際構造コンクリート連合)のプレジデウムに出席のため出張されました。



羽柴秀樹専任講師が 8 月 6 日から 8 月 14 日まで、ESA 92th Annual Conference にて論文発表のため、アメリカに出張いたしました。



金子雄一郎専任講師が、9 月 4 日、国土交通大学校の平成 19 年度土木計画・事業評価研修において、昨年に引き続き講師を務めました。

同研修は、国土交通省、都道府県、政令市等の技術系職員（約 60 名）を対象に実施されているもので、様々なメニューが用意されています。そのなかで「交通基盤の経済評価」と題して、代表的な評価手法である費用便益分析の理論的背景や具体的な計算手順等の解説、簡単な演習の実施、最近の動向の紹介などが行われました。



長谷部寛助手は平成 20 年度日本大学学術研究助成金(一般研究)を受領されました。研究題目は、「近接して配置された複数構造物間の気流性状に関する研究」です。

広島県・土木系 4 科 校友会の開催

土木学会全国大会の際、9 月 13 日（木）18 時より理工学部土木工学科・社会交通工学科・生産工学部土木工学科・工学部土木工学科の教員・学生と広島県校友との懇親会が広島市内の「八丁堀シャンテ」にて盛大に行われました。



八丁堀シャンテにて